

世界のリンゴ市場の品薄が楽観主義をもたらす

EUROFRUIT 2023年7月25日

世界市場でのリンゴの不足は、他の多くの課題と戦い続けているベルギーの生産者にとって、これからの出荷シーズンの朗報である。

ベルギーフルーツバレー (BFV) 果実生産者協同組合のマーク・エヴラール氏は、ベルギーのこれからのリンゴ出荷シーズンは有望なようだと言っている。同氏は、「昨シーズンとは対照的に、北半球産の在庫が残っておらず、ニュージーランドの問題などにより南半球産の果実も少ない空の市場に出荷することになる」と言い、「ベルギーでは、出荷の開始が約10～14日遅れると予想している。そのため、我々は強気な立場から始めるべきであり、それは権利関係の有る品種と無い品種の両方に当てはまる」と述べた。

ベルエクスポート (Bel'Export) 社のトニー・デルワエル氏は、ヨーロッパで1,200万トンという記録的な収穫量から始まった前回の出荷シーズンに、ベルギー産のリンゴは力強い成果を収めたとして、「我々は大量に加工処理し、濃縮果汁に対する米国とアジアの高い需要により、7月にはすべての在庫を使い果たした」と述べた。

人件費、エネルギー費、肥料、包装資材の高コストは、引き続き大きな課題となっている。エヴラール氏は、「生産者が1kgの農産物を生産するための総コストは、昨シーズンに比べて大幅に上昇した。このほか、干ばつ、洪水、寒波、熱波、降霜など、我々が直面するすべての気候問題に加えて、包装などに関するグリーンディール規制に確実に準拠する必要がある。多くの不確実性があるため、生産者はどのようにしてすべてに対処するのか不安になる。あらゆるレベルで教育が必要である。我々は、取引先、小売業者、さらに最終消費者を教育する必要がある」と語った。(以下「」は同氏の発言)

労働力の確保とそのコストは依然として課題であるが、少なくともヨーロッパ諸国間の賃金格差は縮小した。「過去には、南ヨーロッパや東ヨーロッパの人件費と、たとえばベルギーの人件費との間に大きな格差があったが、今はかなり小さくなっている。以前は、南ヨーロッパでは時給5～6ユーロ、ベルギーでは約12ユーロであったが、今ではベルギーでは約15ユーロ、南ヨーロッパでは12ユーロ近くになっている。」

エヴラール氏にとって、優秀な労働者は常に重要な投資対象である。「質の高い労働力を望むなら、労働者を含めすべての人の生活費が上っており、それらの人々がまともな生活を送る必要があることを理解しなければならない。」

同様に重要なことは、インドのような成長市場を発展させ続けることである。エヴラール氏によると、今シーズンは、多くのことが他の国からインドへの流入量に大きく依存する。

「他の輸出国が何を提示するかはまだわからない。過去数年間、中国はインドとの間のいくつかの特定の問題のために手を引いていることを我々は知っている。インドのバイヤーは、価格関連の観点からイランとトルコに一層注目してきている。ポーランド、イタリア、ベルギーなどからインド市場に出荷しているヨーロッパの出荷業者もまだいる。インドと米国はより緊密に協力しようとしているため、レッドデリシャスのような米国産のリンゴが再び注目されるだろう。50%から75%に引き上げられていた輸入関税が再び50%に引き下げられるので、米国産のリンゴが競争力を得ることは間違いない。」

執筆者: トム・ジョイス